



「今、考えたいこと」

幼児課 課長 内田 祥子

今年度もあと2か月余りとなり、今学年のまとめの時期を迎えています。

新型コロナウイルスは感染拡大を繰り返し、コロナ禍と言われる状況が2年間にも及んでいます。未だに収束が見通せない中で、日々感染対策にご配慮いただきながら子どもたちの学びや育ちを支えてくださっている各校園の先生方に心より感謝申し上げます。

私は昨年度、幼稚園の現場で、コロナ禍1年目を経験しました。子どもたちの健康観察、うがい、手洗い、消毒の徹底に加えて、3密を避けるための対策を職員間で共有し、子どもたちや保護者にとって安心安全な園運営に努めてきました。そこで感じたことは、大人が考えている以上に、子どもたちはこの社会の変化を敏感に受けとめ、それに応じて生活しようとする力をもっているということでした。

しかしながら、感染拡大防止のためのマスク着用での生活の中では、表情を通じたコミュニケーションが困難になったり、乳児が言葉を覚える過程で保育者の口の動きを模倣しづらかったりといった影響を懸念することもあります。コロナ禍では、ディスタンスを取って、距離を保とうとしますが、この物理的距離が生まれる今だからこそ、精神的な距離を近づけて、子どもへの共感的なかわりや言葉がけを特に意識していきたいものです。

またこの状況下で一番変化したことは、行事の持ち方であったと思います。密を避けるために行事に集まる人数を分散し、従来のやり方を見直し

ていく中で、そもそも園の行事は、何のために、また誰のために行っているのかということについて、改めて考える機会となりました。勿論、行事は子どもの成長の姿を保護者や地域の方々と共有する上で貴重な場であると考えます。しかし、今までの園における運動会、発表会となると日頃大切にしている『主体的な遊び』から『保育者の指示的な活動』になってしまう傾向が少なからずあったのではないかと職員間で振り返りました。子どもの育ちを中心において行事を捉え直してみると、「行事は、子どもたちの日常の遊びの様子から、保護者や地域の方々に伝えたい姿を見ていただく場である」と位置づけていくことができ、子どもの主体性を引き出す保育の延長上にあるべきものだという方向性をもつことができました。

今、社会の変化が加速度を増し、予測困難な時代と言われる中、社会全体が答えのない問いにどう立ち向かっていくのかが問われています。これから子どもたちが未来に向かって力強く生きていくためには、目の前の事象から解決すべき課題を見出し、主体的に考え、多様な人とのつながりの中で協働的に解決に向かう資質・能力が求められています。

コロナ禍により、期せずして、『今まで通り』ができない状況になりましたが、今だからこそ一つ一つの取り組みについてその価値を再確認し、コンテンツからコンピテンシーを重視する取り組みに向けて、保育教育のよさをさらに進化させていきたいと考えます。

森の未来館「やまのこ」森林散策コースをリニューアル！ ～ 楽しもう！クイズをしながら森林散策を！！ ～

栗東市教育委員会事務局学校教育課

森林環境学習「やまのこ」専任指導員 大前 宣徳



1. 「やまのこ」がスタートして“15年目”！

森林環境学習「やまのこ」は、滋賀県琵琶湖環境部森林政策課の事業として、平成19年度より県内すべての小学4年生を対象に、9つの森林体験交流施設などで実施されています。「やまのこ」事業がスタートして、今年度で“15年目”を迎えました。

栗東市内の小学校は、平成19年度は、「こんぜの里森遊館」で5校、「彦根市荒神山自然の家」で4校が実施していました。平成20年度からは、5月に金勝山に「森の未来館」がオープンされ、栗東市内のすべての小学校は、「森の未来館」で5～6月、10～11月に1泊2日で「やまのこ」を体験しています。しかし、令和2年度と今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から「日帰り」での体験となりました。

「森の未来館」の1泊2日のプログラムは、1日目は間伐体験、2日目は森林散策と焼杉キーラックづくり体験を実施しています。日帰りとなった2年間は、主に森林散策と丸太切り&焼杉キーラックづくり体験を実施しています。

2. 誕生！「やまのこ」の“合言葉”！！



▲「やまのこ」の“合言葉”

令和3年度森の未来館の「やまのこ」では、『やまのこ』の四文字を頭文字として、「**や**まの**ま**んきつ**し**の**の**んびりの**の**び**の**ころと五感で学ぼう！」を合言葉とともに、めあてとし

ても位置付け、子どもたちは森林環境学習の体験に取り組んでいます。

3. 10月から森林散策コースを“リニューアル”！

今年度10月から森の未来館の「やまのこ」では、森林散策コースをリニューアルしてスタートしました。

リニューアルでは、子どもたちが主体的に考えて、楽しみながら森林散策できるスタイルにするとともに、子どもたちだけでも安全に森林散策ができることを趣旨として、環境整備を行いました。

リニューアルとしては、4つのコースがある「森林散策ABCDコースの全体地図看板」の設置をはじめ、子どもたちだけでも安全に森林散策できるように、「コースの矢印看板」を37枚設置しました。

また、子どもたちが心と五感で学びながら森林散策ができるように、ABCDの4コースに各6問、計24問の「クイズ看板」も設置しました。



さらに、森林散策 ▲クイズに挑戦している子どもたちコースには、ロープを伝って登る山の斜面も新たに3ヶ所増設し、4ヶ所となりました。

子どもたちは、「子ども用森林散策地図」を首からかけて、「ドキドキワクワク」しながらサポーターさんと一緒に、「やまのこ」の“合言葉”のように、山の魅力を満喫しながら、のんびりのびのび、心と五感で“感察”し、楽しみながら学んでいます。



▲「森林散策の全体地図看板」で散策コースを選んでいる子どもたち

4. 森林散策ABCDコースの子どもたちの人気スポット“各コースベスト1”！



▲Aコース:展望台 ▲Bコース:ロープを伝って登る山の斜面▲Cコース:シカの角で傷ついた幹▲Dコース:水源地から流れる谷川

子どもたちの「やまのこ」学習の“ふりかえりシート”の「クイズをしながら森林散策して、一番“心”に残っている場所はどこですか？」の質問について、回答者の約460名の4年生の子どもたちが記載した場所を各コース別に集計したところ、次のような結果でした。

コース	人気スポット“各コースベスト1”
Aコース	三上山や琵琶湖を一望できる展望台
Bコース	20mのロープを伝って登る山の斜面
Cコース	シカが角で傷をつけた幹と本物の角
Dコース	水源地から流れる山水の谷川

Aコースは三上山や琵琶湖を一望できる展望台、Bコースは見晴台まで20mのロープを伝って登る山の斜面、Cコースはシカが角で傷をつけた幹と本物のシカの角にさわられる場所、Dコースは水源地から流れる山水にふれたり、水温を測ったりすることができる場所が、子どもたちの人気スポット“各コースベスト1”となりました。

子どもたちは、クイズをしながら森林散策することを通して、印象に残っている場所やクイズの問題を具体的に覚えており、主体的に考えて楽しみながら森林散策することの重要性を再認識することができました。

5. お家の人と一緒に、もう一度“森林散策”！

さらに、ふりかえりシートの「お家の人と一緒に、もう一度“森林散策”をしたいと思っていますか？」の質問については、回答者の約460名中「すごく思っている」と回答した子どもたちが“64%”もいました。

ふりかえりシートを受け取りに学校へ訪問した際に、「お家の人と一緒に、もう一度“森林散策”をした人はいますか？」と子どもたちに尋ねたところ、各校数名いることがわかりました。

その後、お家の人と一緒に、もう一度“森林散策”をした子どもが、その時の様子について書いてくれた感想文が学校から届きましたので、紹介します。

《葉山東小学校の子ども感想文より》

「やまのこ」に行った日、家族に水源地を見たことや展望台でさけんだことなど楽しかった話をしました。そうしたら話を聞いていた弟が、「ぼくも未来館へ行きたいなあ。」と言いました。

そして次の日の土曜日、私が習い事の帰りに車の中で「昨日は本当に楽しかったなあ。今日も森の未来館に行きたいなあ」と言っていると、お父さんが「じゃあ、森の未来館に行こう。」と言ってくれました。弟も私も大よろこびしました。

森の未来館につくと、私も弟も大はしゃぎでした。私は、お父さんと弟を案内して、森をまわりました。Aコースでは、ヤマモモの木にもう一度のぼったり、テグスマツのマツボックリをさがしたりしました。Bコースでは、マツボックリがバラの花の形にそっくりな木の下で実を集めました。Cコースは、水源地までは行けなかったけれど、見えそうなところまで行って、お父さんと弟に説明をしました。この日もムクロジは見つけることができて残念だったけれど、バラの花のようなマツボックリのかけらを見つけられました。今度きた時は、そのマツボックリを見つけて拾って、めずらしいのでおじいちゃんとおばあちゃんに見せて、家にかざりたいです。

お父さんは、「森の中、きれいだね。またこようね。他の県の人には、滋賀県にはびわ湖しかないって言うけど、滋賀県にはこんなすごい森があるんだよね。」と言っていました。

（澤田 愛菜さん）

お家の人と一緒に、もう一度“森林散策”をしながら、クイズを通して学んだことやサポーターさんから教えてもらったことなどを、お家の人たちに説明するというとても素敵な姿に感動しました。

今後も子どもたちには、森林環境学習「やまのこ」の体験を契機として、四季折々の“金勝山の魅力”を満喫して欲しいものです。



初任者研修 奮闘記 4



～栗東市小中学校初任者研修「授業研修」編

～第2回初任者研修～ 10月12日(火) 栗東西中学校

・先生が巡回している間よいと思った内容を覚えて、その子に発言を促した場面が良かったです。また、発表にうなづいているところも多く、子どもが安心して発表できる雰囲気がよかったです。

2年生担任 田谷春寧 教諭 ＜研究授業を終えて＞

- ・授業が楽しいと感じるときは、生徒たちの考えや言葉がいろいろ聴けるところがいい。そういう時は、国語の教師をしていてよかったと思えます。
- ・半年の間にやりがいを感じたり、楽しいと感じたりした瞬間は、授業中の生徒の反応です。生徒たちがたくさん挙手したり、意見を出したりすると、自分の発問がよかった、効果があったと実感できます。授業後に、生徒から「わかりやすかった」「楽しかった」などの声があるとうれしくなります。生徒たちの声や姿が私の次への原動力になっています。



・集中して授業を受けている生徒がたくさんいて素晴らしいかったです。手を挙げる生徒が固定されていたので、もっといろんな子が発言できるとすてきです。

～第3回初任者研修～ 12月2日(木) 治田西小学校



・発表をためらっている児童に機会をつくり、チャレンジさせていた。
一人ひとり丁寧に机間指導で声をかけていてやる気を引き出していた。
話し方が丁寧。ゆっくり、子どもにわかりやすい。

2年生担任 岡本 将教諭 ＜研究授業を終えて＞

- ・最後の最後まで指導案を練っていました。指導案作成に時間がかかりしんどかったのですが、研究会で、参加者の皆さんから貴重な意見をいただき、ありがたかったです。
- ・発表することや話を聞くこと、字を書くことなどが苦手な子に力がつくように支援していきたいし、自分自身のスキルを磨き、指導力をあげていきたいです。
- ・子どもたちが悩みの相談をしにきてくれることが増え、子どもたちとコミュニケーションが取れることで、やりがいを感じます。丁寧に話を聴くように心がけています。

・ワークシートの拡大など、書き方が分かりやすくなる視覚支援があるといい。
自分と比べて感想を書くことが目標なので、ワークシートをもう少し工夫した方がよかった。